

D-14 母親の養育行動・態度に関する調査研究 - 日本とフランスの比較研究 -
武庫川女大家政 ○前田貴子

目的 日本とフランスの母親における養育行動・態度の比較。

方法 日本(J): 吹田市豊中市茨木市西宮市在住の幼稚園児、短大生、大学生の母親、計487名、フランス(F): Ecole Alsacienneの幼稚園児、生徒の母親、396名に対し質問項目26よりなる質問紙による調査法。

結果 (I) 日・佛のクロス集計の結果、26項目中23項目は有意差があり、養育行動・態度において両国の母親が異なる反応を示していることが認められた。

(2) 日常生活の規律や生活習慣に関してはフランスの母親の方がよりきびしく厳格に行なっている。(3) 社会的行動の観に因しては、両国の母親に有意差が認められないが、あるいは日本の方がむしろ厳格の傾向にある。しかし、これは日本の母親の回答の仕方の問題があるようである。(4) 期待年令に関する6項目を通じて、フランスに無応答の圧倒的に多いことが注目され、このことはそのままフランスの母親の養育態度のひとつの特徴を意味するものと解される。

(II) 判別関数法による処理結果。(1) 日・佛両群の判別に寄与する各項目の順位が認められた。(2) 日・佛両群を判別する適中率(81.8%)と誤分類(18.2%)の領域が明らかにされた。(3) 日・佛両群の領域がことなっており形成されていることが明示された。

すなわち、分布曲線からみる限り、日本群はより画一的で分散が小さく、F群はより分散が大きく、個性的な反応パターンを呈していることが認められた。